

# 日本共産党は 河川改修を早期に完了し 荒崎地区から水害の根絶を求めます

## 第1期計画の前倒しを

水害の後、岐阜県は「相川・大谷川・泥川の河川整備について」という資料に基づいて各地で説明会を行い、第1期計画では河川改修工事（平成19年度完了予定）で洗堰を1.05m嵩上げするとしています。

現在は平成16年に入ったばかり、19年までにあと3年もあります。その間にいったいどのくらい水害に怯えて過ごさなければならないのでしょうか。

日本共産党は、平成19年度まで待たずに第1期計画を前倒しして行い、1日も早く河川改修を完了し、洗堰を嵩上げすることを強く求めます。

## 洗堰嵩上げ計画は平成19年度

「相川・大谷川・泥川の河川整備について」によると、「大谷側右岸洗堰の嵩上げ」は平成19年度であり、「徳山ダムの完成」後ではありません。

しかし、新聞などでは、まるで徳山ダムが完成しなければ洗堰が嵩上げされないかのように報道されています。

今、大切なのは、荒崎地区から再びあの悪夢の水害をなくすための要求運動を組むことだと考えます。

昨年の水害後の住民運動で、不十分ではありますが、仮土のうによる囲い堤がつくられ、固定資産税が一部が見直されました。日本共産党は、1日も早く荒崎地区から水害が根絶されるよう頑張ります。

## 囲い堤をつくり水害のない住宅地に

荒崎地区はもともと遊水地であり、それを無視して住宅地にした行政の責任は重大です。

洗堰が嵩上げされても、遊水地機能は残されています。河川の増水時には洪水調整機能が働き、洗堰から余分な水が溢れ出します。囲い堤がなければ真っ先に水害にあうのは、いつも荒崎地区です。

荒崎地区から水害をなくすには、囲い堤をつくり遊水地緑地にすることが必

要です。これは、現在の「総合治水」の考え方に沿ったものであり、対岸の人も含め多くの住民が一致できる解決策だと考えます。

## 日本共産党は 荒崎地区に遊水地公園の建設を 提案します。

### 荒崎だけ？ 囲い堤のない遊水地

荒崎地区は大谷川に洗堰があり、岐阜県や大垣市の治水担当者も「遊水地機能を有する土地」と言っています。

しかし、遊水地とは本来、洗堰だけでなく、囲い堤と排水機の3つを備えた土地のことを言います。

全国には、3つをすべて兼ね備えた遊水地がいくつかあります（表 参照）。それらは、普段は公園、大雨の際には堤防決壊を防ぎ、水を貯めておく場として利用されています。

名称	水系	面積
渡良瀬川遊水地	利根川水系	330ha
庄内治水緑地	庄内川水系	50ha
寝屋川治水緑地	淀川水系	50ha
犀川遊水地	長良川水系	70ha

### 国土交通省「徳山ダムがあっても、荒崎水害は防げなかった」

国土交通省の担当者は「(7月10日の)水害は、揖斐川支流の牧田川、杭瀬川、泥川、相川その支流の大谷川が絡み合っているもので、徳山ダムがあれば揖斐川の水位は43cm低下させることはできるが、徳山ダムだけで荒崎地区の大谷川からの溢水を防ぐことは難しい」と述べました。

1010億円の追加で、総額3550億円もかけて造る徳山ダムより、50～60億円の費用で囲い堤を造り、遊水地公園したほうが、現実的で有効な治水対策です。

## 住民の力で魅力ある住宅地を目指して

大垣市は、今年の9月議会で、「第1期計画が平成19年度完成後、洗堰解消に向けて住民合意を得る第2期計画がある」と述べていますが、この住民合意が得られるまでには、残念ながら長い時間がかかると予想されます。

しかし、荒崎住民はもうそんなに長くは待てません。

日本共産党は、嵩上げ後も洗堰を残したまま囲い堤を作って、遊水地公園を建設することを提案しています。大垣市も「治水対策案のひとつとして考え、今後の課題とする」と、この提案を評価しています。

これならば、対岸住民の合意も得られやすいばかりか、緑いっぱいの広い公園を備えることで、荒崎地区の住宅地としての魅力もずっと増すと考えます。